

うちがいつばし
内貝津橋遺跡 (本発掘調査B)

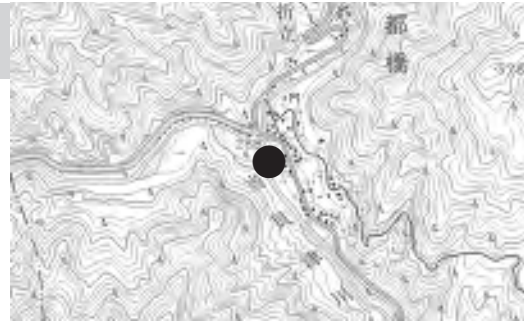
所在地 設楽町三都橋字内貝津地内
(北緯35度3分25秒 東経137度30分56秒)

調査理由 道路改築工事

調査期間 令和4年7月～10月

調査面積 920㎡

担当者 永井宏幸・鈴木恵介



調査地点 (1/2.5万「海老」)

調査の経過 調査は愛知県建設局道路建設課(新城設楽建設事務所)による道路改築工事に伴う事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県県民文化局を通じた委託事業として、令和4年7月から10月にかけて本発掘調査Bを実施した。

立地と環境 調査対象地の現況は旧耕作地である。表土掘削で近代の耕作土、床土を除去し、黄褐色中粒砂の基盤層上面で遺構検出を行なった。西側のA区では基盤層に径1mを超える巨岩が多数含まれており、上層の耕作土から遺物は出土するものの遺構の検出は困難であった。東側のB区では黄褐色の基盤層が安定する状況となり遺構の検出が可能となった。

調査の概要 調査面積は920㎡である。遺構検出面までの掘削深度は浅いところで0.5m、深いところでは1.3mであった。検出された遺構には、耕作溝、土坑、掘立柱建物跡092SB、柱列093SAがある。掘立柱建物跡092SBは1間×1間の掘立柱建物跡で、長軸(南北)3.1m、短軸(東西)2.9m。土坑025SKが中央に位置する。土坑025SKの上面には、被熱した炉跡091SLが検出された。他には027SK、039SKが092SB範囲内に入り、これらの土坑・炉跡は鍛冶関連遺構で、092SBはこれらを覆う目的で構築された可能性が考えられる。柱列093SAは中世以降の柱列で、調査区南半部で検出されたが、いずれも柱穴の川側(西側)に抜き取り痕跡が付属し、川側に倒れる状況下で撤去されたと見られる。(鈴木恵介)



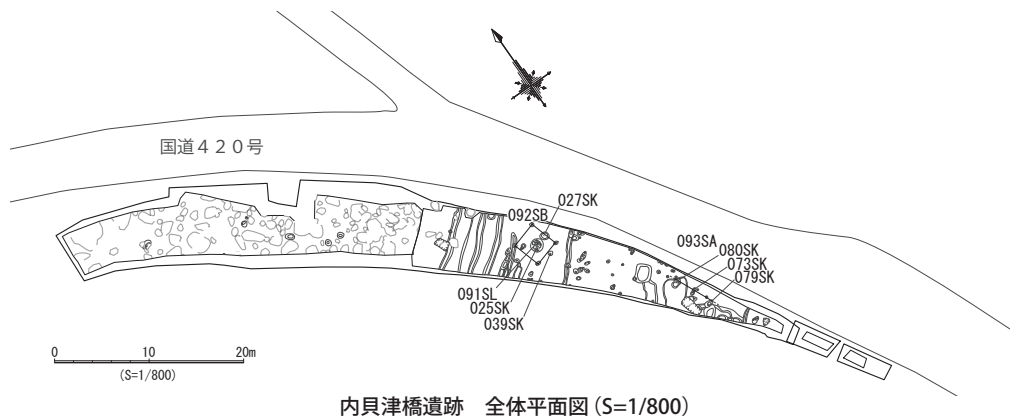
A区出土 石匙



B区 掘立柱建物跡092SB



B区 柱列093SA



内貝津橋遺跡 全体平面図 (S=1/800)